

ほろにか

令和元年7月16日
全国卸売酒販組合中央会

「健全な業界を目指して」

名古屋支部長 盛田 宏

一昨年6月の公正取引基準によるコストオンから2年たちましたが、得意先からの相見積り要請による納価の低下と同時に物流費等のコストアップというダブルパンチにより、卸の利益はコストオン前に戻ってしまう心配があります。中央会総合企画委員会においては物流問題を中心的なテーマに置いております。一部地区において、得意先に対し店先降ろしのお願いを実施されております。

これが全国に広がるかどうか難しい問題もありますが、期待して見守りたいと思います。また運送業法改正に対応し、卸としても運送コストを分析し、運送会社との交渉にあたる必要があります。

一方コストオンによる卸の納価算定において、現状では直送に比べて蔵出しはコスト面でどうしても不利になります。直送と蔵出しのコスト差を少しでも減少させるため、メーカーにも協力して頂いて食品業界にある様に蔵出しリベートを設定してもらう必要があると考えます。今のままでは街の酒屋さんを守るために始まった公正取引基準が、直送の可能な大手小売業に比べそれのできない中小小売店に不利になり、公正取引の目的と逆の方向に向かってしまいます。また、卸にとっても重要な機能である物流機能の軽視につながります。是非業界の健全化のために、蔵出しリベートの設定の働きかけを致したく思います。

一方では納価の低下を避けるため、リテールサポート等の提案機能強化により付加価値商品の販売が必要になります。各支部で実施されている商品知識の勉強会等を活用して頂きたいと思います。これらにより折角コストオンで得た適正利益を死守し健全な業界を目指していく様、業界が一致団結して進んで参りましょう。